

# 臨床研修修了にあたり

## 臨床研修修了にあたり

Aコース臨床研修歯科医 渡辺 真光

この度、執筆させていただきます。研修医の渡辺です。新潟大学歯学部を42期卒業後、4年間は国試浪人をしていました。臨床研修に伴う診療行為はほぼ5年ぶりの体験であり、研修開始に際して個人的には期待感よりも遥かに不安が大きかった、というのが正直なところでした。しかしいざ始めてみると、自分にとってはひたすら楽しく、充実していると感じる研修になりました。

例えば、基礎的な技工として、学生の頃はテンポラリークラウンや個人トレーの製作などを苦手に感じていました。今思えば本当に基本的な視点と知識が欠けていたからだと思います。そういった「穴」を、4月上旬の予備研修や個別の実習として改めて一から学べたことで、克服するのにこの上ない契機となったと感じています。

御世話になった先生が、「自動車免許を持っていることと運転技術が卓越なことは違う」と過去におっしゃっていた意味を痛感しました。

研修を通して再認識したことは技術面だけではありません。国家試験の問題では殆どが記載された所見のみから診断し治療内容を問われますが、実際の患者さんに接して最も強く感じたことは「如何に背景に目を向けられるか」でした。診療時間の延長が帰路を左右する患者さんもいれば、積極的加療をすべきでない患者さんもいらっしゃいます。ラポールの形成を図り歯科的教育を行っていく上で、患者さんのパーソナリティや診療毎の体調・都合等への意識は不可欠であると強く感じました。

技術と視点、その2つを意識して研修を行っていったこと、またブランクのせいもあり環境に順応するのに時間が必要であった自分にとって、当病院のAコースは最良の研修先だったと感じてい

ます。研修の一環として保健所の業務に触れたり、地域歯科保健を推進する先生方と接する機会に恵まれたりしたことも大きな収穫でした。

2017年度からは予防歯科の大学院に進学予定ですが、学生時代から目をかけてくださっていた宮崎先生に教えを乞う期間を短くしてしまったことは後悔しかありません。そもそも浪人を重ねてしまったことで多くの方の期待を裏切ってしまった罪悪感もあります。知識の拡充や間違ったクセの修正のために、浪人は必要なプロセスであったとも感じますが、今後は取りこぼすことの無いよう、また周囲の期待に沿えるよう、邁進していく所存です。

浪人時代から支えてくださった皆様、研修の場を提供してくださった藤井教授、指導医の伊藤先生はじめ総合診療部スタッフの先生方、本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

そして国家試験を控えた皆さん、特に既卒生の皆さんは本番までの1年間、周囲からの共感を得にくい苦悩に曝されることも少なからずあるかもしれません。しかし、少なくとも私は今、歯科医師になれて良かったと心から思っています。環境だけでなく患者さんにも恵まれ、本当に充実した研修生活を送ることが出来ました。今はまだ漠然としていますが、目指すべき方向も見つけました。受験を越えれば視界が開けます。どうか頑張ってください。



研修医伊藤先生班（筆者：中央右側）

## 臨床研修終了にあたり

Bコース臨床研修歯科医 伊藤元貴

今回、臨床研修終了にあたりという題目で原稿を書かせていただきます、伊藤元貴と申します。歯学部ニュースは学生時代からよく読んでいましたが、投稿は今回が初となります。私の1年間の臨床研修についてご紹介します。

歯科医師にせっかくなったのだから、まず一般歯科で歯科治療をやりたいことに加え、口腔外科処置や周術期管理や全身疾患への対応を学ぶため口腔外科で研修したいという希望から、どちらも半年ずつ研修が可能なBコースを選択しました。

4月から10月までの半年間は新潟市内のニイガタクリニックで研修しました。朝8時から診療開始時間前までは勉強会、それがない日はファントム模型を用いたレジン充填や支台歯形成練習、天然歯を石膏に植立しての歯内療法実習などを行いました。実習は指導医の先生によりマンツーマンで直々にご指導して下さいました。

診療では一般的な歯科治療を幅広く経験させていただきました。新患や急患の対応も数多く行い、とくに急患時の対応では、診断した上でその日にどこまでの処置をするかとても苦慮することもありました。学生時代に苦手意識が強かった処置に対してはかなり自信がついた一方で、ちゃんとした治療を行うことができるようになるまでは、まだまだ研鑽が必要であると感じました。

クリニックでは診療に加え、歯科治療は個々の歯科的処置のことをさし、歯科医療は歯科治療によって最終的に患者の健康増進をはかるための包括的なものであるという考え方を学ぶことができ、とても濃密で有意義な半年間となりました。

後半は10月から新潟大学病院の顎顔面口腔外科で研修しました。病棟での業務を主体として、病棟ではチームに分かれて、入院患者の管理や治療

を行い、外来では指導医の先生の診療のアシストやマネジメント、新患の対応などを行いました。

対象となる疾患が多岐に渡ることさることながら、仕事そのものが自分1人で完結することがないというのが、口腔外科と一般歯科の一番の違いだと痛感しました。病棟においてはチームでの連携、情報の共有が必須です。

「治療をするのはほんの一瞬で、その前に患者の全身疾患や病状の把握、必要な検査の実施、診断、予後の推定、術後の管理とか色々考えると治療なんて全体のほんの一部だよ。」指導医の先生からいただいた言葉です。口腔外科だから、抜歯や手術を沢山行っているであろうという当初の安直な認識を改めることができました。また、周術期管理や全身疾患や薬剤など、勉強しなければならないことが山ほどあることに気づき、学生時代よりも教科書や専門書に目を通すことが増えました。

口腔外科で研修したことで、医療人としての必要な知識を持ち、有病者に対して適切な対応ができるようになってから、局所的な歯科のプロフェッショナルになるのも遅くはない、という考えを持つようになりました。

最後に、ご指導して下さった先生方や関わった看護師や衛生士や技工士さん、同期の研修医に感謝申し上げます。ありがとうございました。



病棟研修にて（筆者：右端）